

角川ダム湖上流 大熊の露頭

大熊の貝化石

角川ダム湖最上流、大熊橋と新大熊橋の間の松倉建設資材倉庫横の露頭は、古鹿熊砂岩層と福平凝灰岩層にまたがり、ホタテガイなどの貝化石を多く産出します。この層は、黒部市の福平から滑川市の葦輪付近まで広く分布しています。

現在、ホタテの養殖が盛んなのは岩手県や青森県、北海道の太平洋側です。このことから考えると、古鹿熊砂岩層の堆積した時代の魚津の海は、現在の東北北部から北海道程度の水温であったとが想像できます。



露頭全景



灰色の層内の化石



ウニの仲間



ホタテの仲間



小型のホタテ

福平凝灰岩層

角川ダム周辺では、火山灰が堆積してできる凝灰岩が広く分布しています。現在の角川ダム付近の左岸では、昭和40年代初頭までこの凝灰岩が採取され、家の礎石や石垣、囲炉裏を囲む石として利用されていました。現在では、採取場跡地はダム建設の際に埋め立てられ、殆ど見ることはできません。



昭和40年代初頭の採石場